

科目名 Subject	立体造形演習Ⅱ Three Dimensional Art WorkⅡ			教員名	大須賀 万里子	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	4単位	
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	60時間	
実践的教育	○					
主な学習効果	美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力			表現力、すなわち芸術における実践力		
	—			◎		
科目の概要	立体造形演習Ⅰで体験し学んだ知識や技法、構想の方法などの基礎を基に、多種多様な素材を用い多くの課題作品を製作する。新しい素材の特性・加工方法・応用法を体験しながら、基礎からより高度な幅広い造形の制作を行う。さらに関係のある作品の鑑賞や批評会を行い、修了研究へつなげていく。立体造形製作では、他の美術や美容関連科目の技法や知識を用いる必要もあり、それらと立体造形の関連性をさらに広い視野で体験する。					
授業方法	授業の進め方は対面授業で行う。					
授業の目標	立体造形演習Ⅰの基本を基に、平面と立体の造形上の仕組みや素材の知識、技法、形体、質感、色彩、発想、工程の多様性、応用法を知り、さらに工夫や再考する事で、美術的表現をより深める事ができるようになる。また、多様な課題作品製作の面白さ、ユニークさ、難しさを体験し作りたい作品を制作する事が可能になれる。学んだ立体造形の美的知識や自由な発想で、個性的で美的なテーマを決定できるようになり、これらを修了研究や美容作品に応用し、自分や他の人を美しく豊かにできる工夫や準備ができるようになる。					
時間外学習（予習・復習）	実技の内容をより理解し、上達できる為に予習・復習をおこなう事は大切である。授業前後にそれぞれ60分程度おこなう事。又、美術関連の展覧会、映像、書籍、美術大学の卒業制作展なども見ること。					
教科書・教材	教科書		課題の説明、資料、作品鑑賞の手引き等担当教員作成のものを配布。			
	教材		なし			
	使用設備・備品		木工室の設備備品を使用。			
	参考文献		美術関連の文献を必要に応じて指示。			
評価方法	説明や資料の理解度30%課題の制作熱意・工夫10%創造力・表現力・応用力60%					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法						
	完成した作品について個別に指導を行う。					
履修上の注意	完成の課題作品ごとに、修了研究ポートフォリオ用の写真撮影をすること。授業内容の順序や回数は進行状況により変更になる場合もある。					
本科目履修と関連する資格	資格名		芸術学士			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	後期全般の授業内容説明と最初の課題作品について説明・準備。参考作品の鑑賞。	後期授業全体のながれと修了研究の関係や必要性を知り、作品の鑑賞で近代から現代美術の傾向を認識し作成する事ができる。	予習・自分の好きな美術作品、美術家を調べ書き出す。(60分) 復習・鑑賞でみた好きな作品の感想等を書く。(60分)
第 2 回	後期全般の授業内容説明と最初の課題作品について説明・準備。参考作品の鑑賞。	後期授業全体のながれと修了研究の関係や必要性を知り、作品の鑑賞で近代から現代美術の傾向を認識し作成する事ができる。	予習・自分の好きな美術作品、美術家を調べ書き出す。(60分) 復習・鑑賞でみた好きな作品の感想等を書く。(60分)
第 3 回	「ボディアートⅠ」手と造形 (1) 手のデザイン	人体の中で機能的な美を持つ手をテーマにし、その機能美を知り、構造・形の確認の為デッサンを体験し作成する事ができる。	予習・自分のてさまざまな形のデッサンを行う。(60分) 復習・手の機能や骨格を再確認する。(60分)
第 4 回	「ボディアートⅠ」手と造形 (1) 手のデザイン	人体の中で機能的な美を持つ手をテーマにし、その機能美を知り、構造・形の確認の為デッサンを体験し作成する事ができる。	予習・自分のてさまざまな形のデッサンを行う。(60分) 復習・手の機能や骨格を再確認する。(60分)
第 5 回	「ボディアートⅠ」手と造形 (2) 段ボール素材	腕を含む手の型取り準備。使用する段ボール素材の特性・加工法を知り、指定された形を作成する事ができる。	予習・手の美的なポーズをいろいろ試し、複数決める。(60分) 復習・身の周りの段ボール製品の用途と形の関連を調べる。(60分)
第 6 回	「ボディアートⅠ」手と造形 (2) 段ボール素材	腕を含む手の型取り準備。使用する段ボール素材の特性・加工法を知り、指定された形を作成する事ができる。	予習・手の美的なポーズをいろいろ試し、複数決める。(60分) 復習・身の周りの段ボール製品の用途と形の関連を調べる。(60分)
第 7 回	「ボディアートⅠ」手と造形 (3) 型取り	型取りの意味や使用方法を知り、自分の手の型取りを体験し作成する事ができる。	予習・復習・前期立体造形Ⅰで学んだ石膏素材の特質、使用方法、注意点を書き出し再確認を行う。(120分)
第 8 回	「ボディアートⅠ」手と造形 (3) 型取り	型取りの意味や使用方法を知り、自分の手の型取りを体験し作成する事ができる。	予習・復習・前期立体造形Ⅰで学んだ石膏素材の特質、使用方法、注意点を書き出し再確認を行う。(120分)
第 9 回	「ボディアートⅡ」石膏と造形 (1) 石膏流し込み	手の枠型の石膏流し込み等、高度な技法を体験でき、作品鑑賞でその応用作品例を知り作成する事ができる。	予習・学内や身の周りで石膏製のものを調べてみる。(60分) 復習・作品の鑑賞でみた作品や作者を調べる。(60分)
第 10 回	「ボディアートⅡ」石膏と造形 (1) 石膏流し込み	手の枠型の石膏流し込み等、高度な技法を体験でき、作品鑑賞でその応用作品例を知り作成する事ができる。	予習・学内や身の周りで石膏製のものを調べてみる。(60分) 復習・作品の鑑賞でみた作品や作者を調べる。(60分)
第 11 回	「ボディアートⅡ」石膏と造形 (2) 修正技法	型取りを終えた石膏素材の手を、美的にする修正技法を体験し制作に応用する事ができる。	予習・手の美的造形デザインと彩色デザインを複数描く。(60分) 復習・デザインの見直しと訂正、最終決定 (60分)
第 12 回	「ボディアートⅡ」石膏と造形 (2) 修正技法	型取りを終えた石膏素材の手を、美的にする修正技法を体験し制作に応用する事ができる。	予習・手の美的造形デザインと彩色デザインを複数描く。(60分) 復習・デザインの見直しと訂正、最終決定 (60分)
第 13 回	「ボディアートⅡ」石膏と造形 (3) 彩色	アクリル絵の具の特質・技法を知り、石膏の手を美的・個性的に彩色造形し作成する事ができる。	予習・次回のテーマについて作品例等を調べる。(60分) 復習・作品の写真撮影、批評会、反省等 (60分)
第 14 回	「ボディアートⅡ」石膏と造形 (3) 彩色	アクリル絵の具の特質・技法を知り、石膏の手を美的・個性的に彩色造形し作成する事ができる。	予習・次回のテーマについて作品例等を調べる。(60分) 復習・作品の写真撮影、批評会、反省等 (60分)
第 15 回	「レリーフ」木と粘土造形 (1) レリーフの特徴	レリーフの意味。造形上の特徴を知り、造形制作に生かす事ができる。さらに木素材の加工法を体験し作成する事ができる。	予習・レリーフ制作で表現したいテーマを決める。(60分) 復習・身の周りにある木の加工品を調べる。(60分)

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	「レリーフ」木と粘土造形 (1) レリーフの特徴	レリーフの意味。造形上の特徴を知り、作品制作に生かす事ができる。さらに木素材の板等の加工方法を体験し作成する事ができる。	予習・レリーフで表現したいテーマを考える。および前回課題作品の反省 (60分) 復習・周りの木の加工品を調べる。(60分)
第17回	「レリーフ」木と粘土造形 (2) 木材加工	素材の木の特質・注意点等を知り、粘土の造形に必要な木の芯材加工や応用を体験し作成することができる。	予習・美術本でいろいろなレリーフ作品を見てデザインを決める。(60分) 復習・使用した木の特徴や加工法の再確認(60分)
第18回	「レリーフ」木と粘土造形 (2) 木材加工	素材の木の特質・注意点等を知り、粘土の造形に必要な木の芯材加工や応用を体験し作成することができる。	予習・美術本でいろいろなレリーフ作品を見てデザインを決める。(60分) 復習・使用した木の特徴や加工法の再確認(60分)
第19回	「レリーフ」木と粘土造形 (3) デザイン	テーマにそったデザインを決める。使用する素材の粘土の特徴や扱い方を知り、造形制作に生かす事ができる。	予習・いろいろな粘土の種類と特徴を調べる。(60分) 復習・作品鑑賞で見た作者たちの他の作品を調べる (60分)
第20回	「レリーフ」木と粘土造形 (3) デザイン	テーマにそったデザインを決める。使用する素材の粘土の特徴や扱い方を知り、造形制作に生かす事ができる。	予習・いろいろな粘土の種類と特徴を調べる。(60分) 復習・作品鑑賞で見た作者たちの他の作品を調べる (60分)
第21回	「レリーフ」木と粘土造形 (4) 粘土付け	木製の芯材上に下地用の粘土を付けていく過程で、デザインした形が出てくる面白さを体験し作成することができる。	予習・復習・デザインした形と粘土制作の工程を見直し修正等確認する (120分)
第22回	「レリーフ」木と粘土造形 (4) 粘土付け	木製の芯材上に下地用の粘土を付けていく過程で、デザインした形が出てくる面白さを体験し作成することができる。	予習・復習・デザインした形と粘土制作の工程を見直し修正等確認する (120分)
第23回	「レリーフ」木と粘土造形 (5) 粘土加工	硬化した粘土の加工に必要な彫刻刀や他の工具の使用法を体験する。仕上げ、彩色を行い完成し作成することができる。	予習・作品の仕上げに必要な工程や彩色を考える。(60分) 復習・写真撮影と批評会での反省見直し等 (60分)
第24回	「レリーフ」木と粘土造形 (5) 粘土加工	硬化した粘土の加工に必要な彫刻刀や他の工具の使用法を体験する。仕上げ、彩色を行い完成し作成事ができる。	予習・作品の仕上げに必要な工程や彩色を考える。(60分) 復習・写真撮影と批評会での反省見直し等 (60分)
第25回	「BOXアート」多種素材と造形 (1) 素材	BOXアートの意味・内容・技法を知る。多くの素材の特徴や効果度、加工法・応用法を知り制作に生かす事ができる。	予習・表現したいテーマを決め、そのデザインを描く。(60分) 復習・使用したいいろいろな素材を探し集める。(60分)
第26回	「BOXアート」多種素材と造形 (1) 素材	BOXアートの意味・内容・技法を知る。多くの素材の特徴や効果度、加工法・応用法を知り制作に生かす事ができる。	予習・表現したいテーマを決め、そのデザインを描く。(60分) 復習・使用したいいろいろな素材を探し集める。(60分)
第27回	「BOXアート」多種素材と造形 (2) デザイン	木で箱を作成するための木工技術の基本を知る。箱の形をデザイン、構成、彩色をし作成することができる。	予習・復習・作品制作に必要な各種の素材や道具、工程の見直しと確認 (120分)
第28回	「BOXアート」多種素材と造形 (2) デザイン	木で箱を作成するための木工技術の基本を知る。箱の形をデザイン、構成、彩色をし作成する事ができる。	予習・復習・作品制作に必要な各種の素材や道具、工程の見直しと確認 (120分)
第29回	「BOXアート」多種素材と造形 (3) 仕上げ	箱の中・外に自分の表現したいテーマを、各種の素材を用い制作できる。造形の幅広さ面白さを体験し作成する事ができる。	予習・復習・写真撮影、批評会の問題や反省、確認等 (120分)
第30回	「BOXアート」多種素材と造形 (3) 仕上げ	箱の中・外に自分の表現したいテーマを、各種の素材を用い制作できる。造形の幅広さ面白さを体験し作成する事ができる。	予習・復習・写真撮影、批評会の問題や反省、確認等 (120分)